

各関係機関長 様

佐賀県農業技術防除センター所長

大麦網斑病および麦類赤かび病の防除対策の徹底について

本年産麦類の出穂期は、小麦、大麦ともに平年より早くなる見込みです。

については、下記事項を参考に、大麦網斑病、麦類赤かび病の防除対策の徹底について、生産者へ指導をお願いします。

記

1. 麦類の生育状況

小麦、大麦の出穂期の平年値は下表のとおりであるが、本年産麦類の出穂期は平年より早くなる見込みである（佐賀県農業試験研究センター・佐賀県米麦改良協会：令和 3 年 3 月 19 日付け麦づくり情報第 4 号）。

表 出穂期の平年値

品種	播種期 (月/日)	出穂期 平年値 (月/日)
シロガネコムギ	11/20	4/3
	12/10	4/11
サチホゴールデン	12/10	4/3
はるか二条	12/10	4/1

麦づくり情報第 4 号より抜粋

2. 大麦網斑病の発生概況

3 月 15～17 日に当センターが行った調査(22 圃場)では、平均発生株率は 19.6% であり、平年(同 4.4%)より多い。なお、病斑は下位葉での発生が主体であるが、上位葉に進展している圃場も認められ、発生は圃場間差が大きい。

3. 防除対策(大麦網斑病、麦類赤かび病)

出穂期は、播種時期や今後の気象等によって異なるため、必ず圃場ごとに出穂状況を確認したうえで、適期防除に努める。

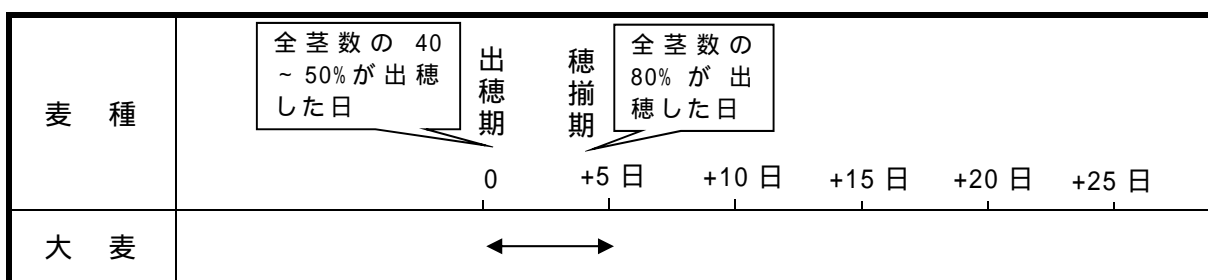
1) 大麦網斑病

防除適期は出穂期～穂揃い期である(図 1)。

2) 麦類赤かび病

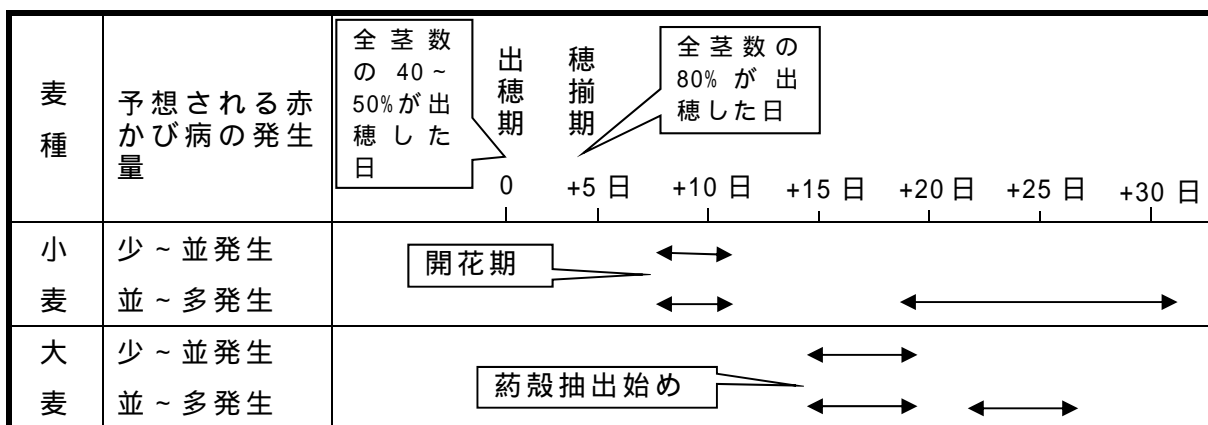
- (1)小麦の場合、開花期(出穂期の約7~10日後)の赤かび病防除は、発病抑制だけでなく DON 低減効果が高い。さらに、開花 10~20 日後頃に 2 回目の散布を行うと効果が高まる(図 2)。なお、本病の発生が多いパン用小麦については、2 回防除を基本とする。
- (2) 大麦の場合、葯殻抽出始め(出穂期の約 2 週間後)の赤かび病防除は発病抑制だけでなく DON 低減効果が高い。さらに、その 7 日後頃に 2 回目の散布を行うと効果が高まる(図 2)。なお、本病にやや弱い「はるか二条」については、2 回防除を基本とする。

図 1 網斑病の防除適期



注 1) 出穂期とは全茎数の 40~50% が出穂、穂揃期とは全茎数の 80% が出穂した日。
 注 2) 矢印は防除適期を示す。

図 2 赤かび病の防除適期



注 1) 出穂期とは全茎数の 40~50% が出穂、穂揃期とは全茎数の 80% が出穂した日。
 注 2) 小麦の開花期とは 40~50% の穂が開花した日。
 注 3) 大麦の葯殻抽出始めとは、50% 以上の穂で葯殻が見え始めた日。
 注 4) 大麦で 2 回目の防除を行う場合、薬剤の使用方法(収穫前日数)に特に注意する。
 注 5) 矢印は防除適期を示す。

連絡先：佐賀県農業技術防除センター 病害虫防除部
 〒840 2205 佐賀市川副町南里 1088
 TEL (0952)45 8153 FAX (0952)45 5042

